

理系女性のキャリア加速プログラム

(実施期間：平成 21～25 年度)

実施機関：東京農工大学（総括責任者：松永 是）

プロジェクトの概要

女性未来育成機構において、毎年 3～4 名の新規養成女性研究者を、安定的な職(助教・准教授)として新規採用する。機構における一定の育成期間を経た後に各専攻に配置する。これにより、3年間で 11 名(5年間では 17 名)の安定的な女性教員の確保を可能とする。また、独自養成女性研究者は先駆的な取組みである“農工大式ポジティブアクション「1プラス1」”により、常勤女性教員(助教・准教授・教授)を毎年 2 名以上採用する。これにより、3年間で 6 名以上(5年間では 10 名以上)の女性研究者を独自に新規採用する。これらの取組により、5年後には、農学・工学系の女性研究者総数が 50 名程度となり、平成 20 年度現在の既在籍女性研究者(26 名)に比して倍増とする計画である。女性未来育成機構は、キャリア支援(環境整備と支援)、キャリア加速(教育力向上プログラム)、キャリア開発(研究力向上プログラム)の 3 部門で構成し、教育力と研究力に秀でた質の高い女性研究者を育成する。キャリア加速部門ではメンター教員のサポートの下に実践講義・実習指導を実施し、独創性・即応性・持久性を習得する教育プログラムを行う。キャリア開発部門では、独自養成女性研究者および既在籍女性研究者も参画し、“女性の視点で考える「安全・安心・健康」”をテーマとする拠点研究を産学連携の下に実施して、既成概念の枠を超えた発想と課題提案型の立案力・研究力を兼ね備えた女性研究者を養成する。

(1) 評価結果

総合評価	進捗状況	女性研究者支援システム改革状況	取組の内容	実施体制	今後の進め方
A	a	s	s	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

既存のポジティブアクション「1プラス1」と本プロジェクトによる採用が相乗効果を上げ女性教員が順調に増加している。また、女性未来育成機構が中心となり取り組んでいる特色的な女性研究者養成システムも効率よく機能しており評価できる。

- ・**進捗状況**：農学・工学系の女性教員新規採用割合は目標値を上回り達成した。しかし、分野別女性研究者比率については、農学系は目標値を達成したが、工学系は流動性が高く目標値に至らなかった。
- ・**女性研究者支援システム改革状況**：本事業による女性限定教員採用と既存のポジティブアクションによりシステム改革が進展し、農学・工学系の女性研究者の採用が進んでいる点、及びポジティブアクションにより上位職階での採用が進んでいる点は高く評価できる。また、採用した女性研究者を女性未来育成機構に 3 年間所属させ研究・教育能力の向上を図るシステムも高

く評価できる。

- **取組の内容**：女性研究者による全学的なプロジェクト拠点研究を実施しており、女性研究者の研究能力の活性化を図る実効力のある取組となっている。学内外への波及効果を考慮し、積極的に女性研究者支援の啓発普及に努めている点は高く評価できる。
- **実施体制**：学長直下の全学的組織でプロジェクトが実施されており、トップダウンが効率的に機能し、部局との連携も効率的に進めていることは評価できる。
- **今後の進め方**：学長による継続的なコミットメントが言明され、期間終了後も十分な自主経費の措置が計画されており、取組の継続性・発展性の確保が期待できることは評価できる。今後も女性研究者がより高い職位へ昇進するよう、本プロジェクト実施強化の姿勢堅持を期待する。